

「バイクの日」安全運転を

多治見・恵那署 道の駅でライダーへ啓発



道の駅の利用者に安全運転を呼びかける啓発活動。白バイへの体験乗車もあった＝恵那市山岡町、道の駅おばあちゃん市・山岡

子どもに白バイ乗車体験も

バイクの日(8月19日)に合わせ、多治見署と恵那署は、ツーリングスポットとして人気がある恵那市山岡町の道の駅「おばあちゃん市・山岡」で、ライダーらに安全運転を呼びかける啓発活動を行った。

(織部俊太郎)

両署員や県警の交通機動隊員、東濃地区と恵那地区の交通安全協会員約10人が参加し、道の駅利用者にチラシなどを手渡した。白バ

東濃信金 職 員 交安メッセンジャーに



交通安全メッセンジャーの委嘱を受けた和田将治さん。交通安全ステッカーを貼った原付で営業先を回った。多治見市本町、東濃信用金庫本店

また同署はこの日、東濃信用金庫の職員約50人を「交通安全メッセンジャー」に委嘱した。業務で使う原付に「交通安全」などと書かれたステッカーを貼り付けてもらい、周囲のドライバーに注意を促す狙い。委嘱を受けて、早速市内の営業先を回った新入社員の和田将治さんは「東信の看板を背負っているの、手本となるような運転を心がけたい」と話した。

イやパトカーの乗車体験もあり、子どもたちは警察官気分を楽しんだ。

多治見署によると、同署管内では二輪車の人身交通事故が7月末時点で13件(前年同期比2件増)発生している。中尾学交通1課長は「車と違ってバイクの事故は命に関わる事故につながりやすい。適度に休憩を取りながら気を付けて運転してほしい」と話した。